

平成27年度 福井県立福井東特別支援学校月見分校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他

(意見を聞いた方) 福井県立福井東特別支援学校月見分校PTA会長
福井大学教職大学院教員

○教育課程・学習指導

- ・近年、ICT機器の活用が注目され、先進的にとりこんでいることは評価できる。多様な子どもに対しては、個々の状態に即応した活用が望まれる。ICT機器活用は目的ではなく、手段であることに留意すべきである。
- ・ICT機器を使用して授業によく取り組んでいることがわかった。

○生徒指導

- ・病弱もしくは心身症の生徒達にとってコミュニケーションや集団活動は重要である。生徒と教員が混合した活動集団として捉えていくことが必要である。
- ・指導において、教員自身の体験をもとに話をし、十分熱心に取り組んでいる。

○進路指導

- ・進路指導は就労指導、進学指導のほかに社会参画、キャリア教育としてとらえることも重要である。進路選択については情報を提供することに加え、一步を踏み出すための打開策をさらに考えてほしい。
- ・高校進学についての十分な情報を生徒と保護者が共に得ることができた。

○研究・研修

- ・本校の研究は、病弱教育に関する研究であり、一方では、少人数生徒の教育活動であることに關する研究となっている。今年度以上に様々な研修を行ってほしい。

○保健指導

- ・病弱教育においては、保護者・医療関係者・学校関係者の情報共有はとても重要である。今後生徒自身による自己管理等に取り組む場合、学校教育全体もしくは自立活動との関連性も考慮してほしい。

○特別支援教育

- ・地域にいる病弱児童生徒への支援の役割を学校が担っているが、様々な現状、課題があるはずである。さらに地域のニーズに対応できることを期待する。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

- ・今年度の学校の取組については、ICT機器を活用した遠隔授業、研究授業等、全体的に成果があり、保護者や地域の相談関係者等からも高い評価を得ることができた。教職員の共通理解と協力体制の取り易さを利点として今年度の取組を継続していく。また、心身症等の児童生徒について、心理面に関する研修も積極的に行い、個に応じた生徒指導・進路指導について検討するなど、教職員の専門性をより向上させていく。